

浮いた浮いた〜

さぎちょう

# 勝山左義長まつりガイドブック

Sagicho Matsuri Guide Book 2013

完全  
保存版  
Take Free



春を呼ぶ奇祭「勝山左義長まつり」  
勝山の歴史と文化に触れる!!  
勝山左義長まつりを  
10倍楽しむ!!



勝山左義長文化財推進協議会

## 福井県 広域MAP

Fukui prefectural  
wide area MAP



### 飛行機

東京羽田空港→小松空港(約1時間10分)→バス(約1時間)→福井駅→  
えちぜん鉄道(52分)→勝山駅

### 電車

JR大阪駅:特急(約1時間45分)→JR福井駅→えちぜん鉄道(52分)→勝山駅  
JR名古屋駅:特急(約2時間)→JR福井駅→えちぜん鉄道(52分)→勝山駅  
JR東京駅:新幹線(約2時間15分)→米原駅→特急(約1時間)→JR福井駅→  
えちぜん鉄道(52分)→勝山駅

### 車

北陸自動車道:福井北IC・丸岡ICから国道416号線経由で約35分  
東海北陸自動車道:白鳥ICから油坂峠道路を通過して国道158号→  
157号線経由で約60分

## 勝山市 広域MAP

Katsuyama city  
prefectural wide  
area MAP

## 会場 MAP



ぜひ勝山左義長まつりへ  
お越しください。  
お待ちしております。

### 勝山市観光キャンペーンスタッフ フレッシュメイツ!

左義長まつり当日は総合案内  
所でまつりの案内をしています。  
左義長まつりはもちろん、勝山  
市の見どころを余すことなくご  
紹介します。皆様、ぜひ勝山市に  
お越しください。





4P

左義長ばやしが櫓を彩る

三味線・笛・鉦のおはやしに乗って太鼓を打ちながら浮かれ踊る

5P

個性的な絵と時世の句、街を賑わす鮮やかな色

6P

この日の為に作る作り物

7P

五穀豊穰と鎮火を祈願する歴史の炎

ついにクライマックス! 冬空高く舞い上がる火柱は圧巻!

8P-9P

櫓を大解剖

12基の「左義長櫓」は地区ごとの個性が光る!

10P-11P

歴史を感じる街歩き

今と昔を比べながら歴史とともに歩いてみよう

12P

福井県広域マップ & 勝山マップ

遠くからのアクセス等ものっているよ



# 春を呼ぶ奇祭 勝山左義長まつり

勝山三町の年中行事として三百年を超える伝統をもち、  
奥越に春を呼ぶ奇祭として知られる勝山左義長まつり。

街には色短冊が揺れ、左義長太鼓が響き、  
辻行燈と作り物が訪れる人を勝山文化に誘う。





## 2 個性的な絵と時世の句

【辻行燈】

勝山左義長では、櫓周辺に色鮮やかに吊るされた3〜4色の短冊とともに、道行く見物客の目を楽ませるのが、通りの辻々に掛けられた「辻行燈」だ。辻行燈の歴史は、江戸時代より始まり、藩主小笠原公は「無礼講」として庶民の気持ち悪く、古川柳や狂歌（滑稽を詠んだ単俗な短歌）に託すことを許し、町内の辻や櫓の周りに世相風刺を織り交ぜた庶民の願望が描かれた行燈が掛けられた。



勝山の人の人柄が伝わってきて、温かい気持ちになれる。

### 大行燈

辻行燈は小さいモノばかりではない。櫓の両正面下に掛かる大行燈には狂歌を主体として行政問題、世界の話や吉祥干支にちなんだ句と絵が描かれる。



## 街を賑わす鮮やかな色

【短冊】

勝山左義長の1週間前からまつり当日までの間、勝山の街には色とりどりの短冊が飾られ、まつりムードが一気に高まる。各町内を彩る赤・青・緑・黄・白など、町内ごとに決められた3〜4色の短冊を道路の上に吊りまつりに賑いを添えている。各区の短冊の色は火消五組の飾り纏の色がルーツと言われている。江戸時代から明治の中頃までは松の小枝に赤く染めた紙の短冊をくくりつけ、各家々の軒先に飾られた。現在のきれいな短冊は、左義長が鎮火祭と関係が深いことから、明治の終わりに、五色組飾り纏の色に変えられた。



## 左義長まつりの見どころ

# 左義長まつりを隅々まで堪能！

小笠原公入封以来300年以上続く「奇祭」の歴史を体で感じよう！

色とりどりの長襦袢姿の浮き手がおはやしに合わせ

浮かれ踊る「左義長太鼓」は必見！

あ〜浮いた！  
浮いた！

太鼓を打つとは言わず、  
「浮く」と言います。



各町内に12基の左義長櫓が建つ。2階建ての入母屋造りは、立ち姿も美しい。



### 5つの曲目

勝山左義長ばやしの曲目は5つ。「だいづる」「しっちょめ」「ごたいてん」「戦友」「こんびら舟々」だ。よく聞かれる「蝶よ〜花よ〜花よのネンネ」と歌う曲目はだいづるである。

## 左義長ばやしが櫓を彩る

【おはやし】

奥越に春を呼ぶ勝山左義長まつりは旧勝山町域の13区で行われている。その始まりは延宝3年（1675）の大火を機に町の再建を始める時期、もしくは小笠原氏が元禄4年（1691）に入封し、新たに城下町として出発する時期のいずれかで、どちらにしても300年を超える伝統をもつ。左義長櫓が12基建てられ、上では赤い長襦袢姿の男衆や子供達が、三味線・笛・鉦のおはやしとともに太鼓を打ちながら浮かれ踊る。この様子を「浮かれ」と言う。太鼓には2人の奏者が付き、1人は単調な三ツ打の地を刻み、1人は踊るように浮く。この独特な演技が勝山左義長の特徴で他に類がない。太鼓の音を抑えるため太鼓に1人を腰掛けさせ3人体で浮く。浮き太鼓は身振り手振りよろしく浮かれて太鼓を打つもので、浮き手に決まった演奏法は無い。地に乗りにながら独自の間合いでバチを探り、滑稽な仕草や表情で浮かれる様子は観客を楽しませる。バチが短いのも特徴の1つである。

# 5 五穀豊穰と鎮火を祈願する歴史の炎

【どんど焼き】

日曜日の午後になると各町内の御神体が弁天桜で有名な弁天河原に運び込まれ、「どんど焼き」の準備が進む。各町内に建てられる御神体は中央に4mほどの松(杉)の生木を立てて「心」とし、4本の松(竹)を結んで四角錐に組み槽の正面にたてる。松飾りの頂上には日の丸扇子などで飾られた御幣を取り付ける。午後9時になると、各区の区長・年番長が御神体にくべる御神火を神明神社から戴き、

どんど焼き会場へ運ぶ(御神火送り)。勝山左義長は鎮火祭として始まり、火祭りも合わせ、神明神社に祀られている「火産霊神(ほむすびのかみ)」の御火を御神火として戴く。各家から集めた正月の松飾りやしめ縄を御神体に結び付け、一箇所に集め、のろしを合図に一斉に御神火が各地区の御神体に点火される。冬空美しく雪に映えて燃え盛る炎の競演とともに祭りのフィナーレを迎える。



この「どんど焼き」は火の神を祀り幸福を祈願し、災難除けを目的としたもの。五穀豊穰と鎮火を祈願しながら、この火で体を暖め、餅を焼いて食べると無病息災で、その年は健康であると言われている。勝山左義長まつりは福井県の奥越地方に春を呼ぶ奇祭と言われ、これを境に勝山に春の足音が聞こえてくる。

## 「後燃やし」に参加しよう！

どんど焼きの残り火で長い竹に刺した餅をあぶって食べて無病息災を願う。昔はどんど焼きの翌朝に後燃やしの残り火で粥を炊いたり、餅をあぶって持ち帰り家で食べた。また残り火の灰を体に塗って無病息災を願った。



ついに  
クライマックス!  
冬空高く舞い上がる  
火柱は圧巻!



# 4 この日のために作る作り物

【作り物】

勝山左義長まつりを見て歩く楽しみの一つである「作り物」。各町内ごとの家座敷に通りから見えるように飾られる。作り物の作り方は、各町内で継承されている。江戸時代から続く「勝山にわか」の流れを汲み、素材を活かした即興性の強いことが特長。ほぼ同種の桶やお盆、枡などの古い日常生活道具を金屏風の前に並べ、その年の干支や吉祥、世相や政治、経済、世界情勢



などに関わる主題を表現する。作り物は、素材との調和と意外性が見どころであり、素材で想像力豊かな作品が並ぶ。作り物には「書き流し」といわれる作品の趣旨を「五七五七七」で表現した書き流しが必ず添えられている。書き流しは、一枚には意義を書き、もう一枚には素材と作り物を洒落言葉で表現する。その作品と書き流しとの妙が面白い。

古道具の組み合わせ  
作品で使われる素材は、白・杵・箆・籠・盆・筒・膳・櫛・扇子・徳利・重箱・蒸籠・大工道具・農作業具・提灯・角樽・三方など、家庭内の古道具などが素材として作られる。





### 櫓の内部

櫓の組み立てに際しては釘や金具は用いず、全て木と木を組み合わせて作られていて、日本古来の伝統的な木造建築の工法が受け継がれている。



組立式の  
木造建築  
だよ

基本的な骨格部を組み上げる。この骨組の中にはほぼ1枚くらいの大サイズの板戸や天井板、屋根板などをはめこみながら組み立てる。天井板のパネルには、あらかじめ棹縁が取り付けられており、屋根板のパネルにも同様に垂木が打ちつけられている。そして2階の回縁を支える腕木や力板は柱に施された仕口に差し込んで組み立てられる。

## 櫓を大解剖 6

【やぐら】

「左義長櫓」は総檜作りの拜殿様式で本体は大きいもので幅約4m、高さ約6mにもなる。明治29年(1896)の大火でほとんどの櫓が焼失してしまったが、現在は12基の内3基は大火を免れ市の有形文化財となっている。

櫓は入母屋造りと切妻造りがあり、2階の舞台で左義長太鼓が披露される。1階部分は控えとし、2階は畳敷の舞台で周囲に手すりつきの回縁をめぐらしている。

勝山左義長櫓の大きな特徴は、本格的な木造建築の形式を持つが、組み立て式であること。今では櫓会館に組みあがったものが保管されているが、以前は左義長の直前に組み立てられ、左義長が終われば解体し、部材を保管していた。

組み立てにはまず土台を据え、その上に柱を立て、その中ほどに床梁を設けて2階部分を作る。さらに柱天に桁や梁を掛け渡し、その上に隅木や棟木をのせて

12基の「左義長櫓」は地区ごとの個性が光る!



### 有形文化財

上袋田区・上長瀬区・下長瀬区の3基の櫓は、平成7年に勝山市の有形文化財に指定されている。夜の櫓は昼間と違い幻想的な立ち姿に目を奪われる。



有形文化財の櫓には立て札が置いてあるよ

### その他の見どころ!

かくれスポット

### からくり時計を見よう!!

勝山市立図書館の正面玄関にある時計はからくり時計になっています。毎日、午前10時、正午、午後1時、3時、5時の5回左義長ばやしが流れます。毎年、左義長に来ている人でもなかなか知らない隠れたスポットです。みんなで左義長からくり時計を見に行こう!!



カフェ&お土産

### はたや記念館ゆめおーれ勝山

はたや記念館「ゆめおーれ勝山」は、明治38年(1905)から平成10年(1998)まで勝山の中堅機業場として操業していた建物を保存・活用したものです。はたや記念館ゆめおーれ勝山内には勝山市内の総合おみやげ店&カフェがあります。地元の特産品を集め、ここだけの限定品もあります。



地元産の新鮮な卵と牛乳を使用した、焼き菓子やプリンが人気!





桜の名所です

SPOT 9

### 弁天桜

九頭竜川弁天堤の桜並木は一目千本といわれ奥越の桜の名所だ。川の右岸、勝山橋周辺に1.5km続く。大正12年(1923)に勝山町長関源右衛門が桜を植樹したのが始まりである。その後、市橋定吉によって現在の形に整備された。清流と山々の残雪に映えて咲きみだれるソメイヨシノの桜は、風情豊かな一つの絵模様としてその眺めは格別。4月中旬の土日には「弁天桜まつり」が開催され、毎年たくさんの花見客で賑わう。また、4月上旬～5月上旬には九頭竜川に鯉のぼりが渡される。

### 光明院（白山神社別当寺）

沢区の県道筋に建ち「コンメンさん」の名で親しまれている。高星彦命を祀り本地仏「如意輪観音菩薩坐像」(勝山市指定文化財)が安置されている。旧白山神社は明治4年(1871)神明神社に合祀され、光明院は改築され本殿の前屋根は大正時代の神明神社拝殿の破風を移築した。

SPOT 8



### 開善寺 小笠原家廟所

勝山藩主小笠原家の菩提寺。鎌倉時代末に小笠原貞宗が信濃に建立し、勝山の開善寺は元禄4年(1691)初代小笠原勝山藩主となる貞信の勝山入封に伴い建立された。境内にある小笠原家累代の廟所は、勝山市指定文化財になっている。



SPOT 7



SPOT 6

### 七里壁

平泉寺町大渡から永平寺町鳴鹿に至る約二十数kmの断続的に見られる段丘崖は、総称して「七里壁」と呼ばれている。勝山の城下町建設にあたってはこの段丘崖を境に高台に城や武家屋敷を築き、一段下に寺社、町屋を築いた。また、九頭竜川の河川敷の平地には、洪水時に島のような中洲となっていたため、集落名に「島」がついた地名がたくさんある。



SPOT 5

### 旅館板甚 蔵座敷 [国登録文化財]

江戸時代からの歴史を誇る老舗旅館。1階奥の蔵座敷は床を黒漆喰塗し、竹の落としかけにするなど、独特のデザインとなっている。司馬遼太郎がこの蔵座敷で宿泊しており、『街道をゆく越前の諸道』に紹介している。

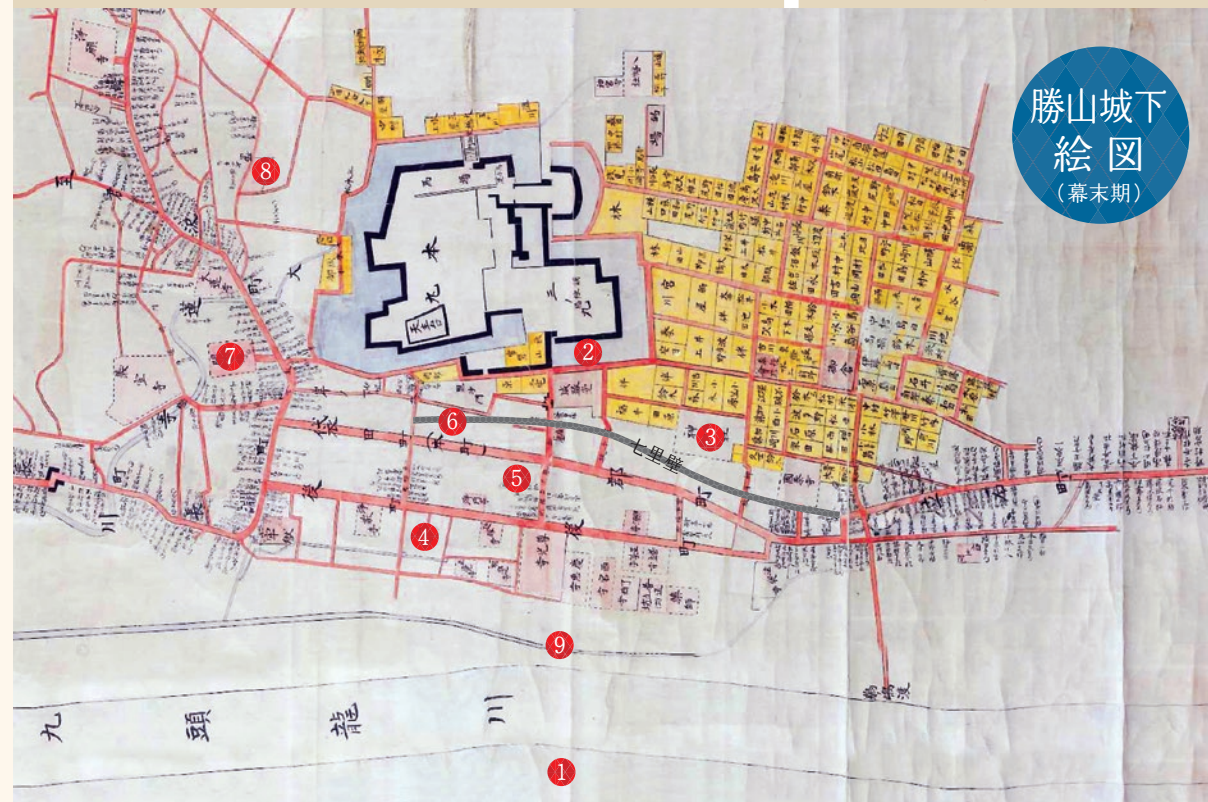
### 旧料亭花月楼 [国登録文化財]

かつて花街として栄えた河原町通りに建つ旧料亭花月楼。現在の建物は明治37年(1904)に角吉楼として建てられた。現在は一部改造されて住居として使われている。天井は意匠的にも優れた傘状。かつて繊維産業で栄えた勝山の繁栄を象徴する建物のひとつである。

SPOT 4



現在の地図



勝山城下絵図 (幕末期)

# 歴史をめぐる 歴史を感じる街歩き

今と昔を比べながら歴史とともに歩いてみよう



SPOT 1

### 勝山駅 [国登録文化財]

大正3年(1914)4月開業の越前電気鉄道勝山駅の駅舎である。木造2階建寄棟造、棧瓦葺で、吹放ちの下屋がつく。ホームの待合所は、駅舎から線路をはさんだ反対側ホームに建つ。木造平屋建で、トタン葺の庇がつき、線路側を吹放ちとする。ほぼ当初の形態を留めており、駅施設として貴重である。

### 深谷家住宅洋館 [国登録文化財]

深谷家住宅洋館は明治12年(1879)に診療所として藤田九右衛門によって建てられた。1階には診察室や待合室があり、2階には病室が設けられた。木造平屋建、寄棟造棧瓦葺の瀟洒な建物で、庭とともに、落ち着いた景観を作り出している。県内には、現存する明治期の洋風建築は数が少なく、貴重な遺構である。



SPOT 2



SPOT 3

### 神明神社 旧成器堂講堂 [市文化財]

市内小学校の名前にもなっている学問の殿堂。天保12年(1841)に勝山藩校として開校し、天保14年に成器堂の名称となった。もとは勝山城外大手門筋に創設された藩校の読書堂(学問所)の講堂で、明治44年に神明神社に移築。外観はほぼ当時の姿を留めていることから勝山市指定文化財に指定されている。